

# 経済・金融 フラッシュ

## 鉱工業生産 11年9月

～7-9 月期は大幅増産も、10-12 月期はほぼ横ばいへ

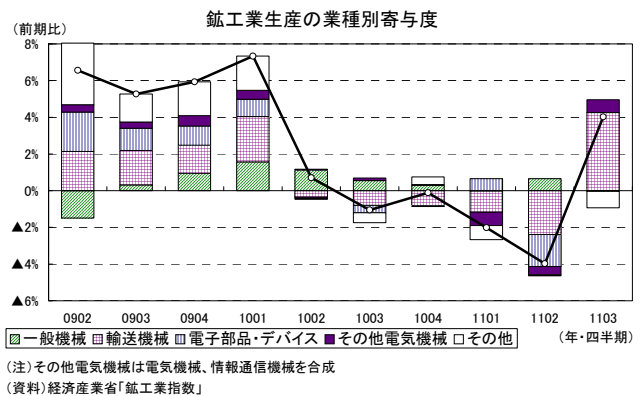
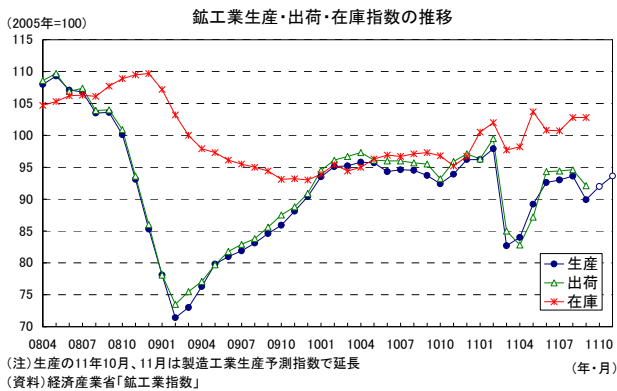
経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 7-9 月期の生産は前期比 4.1%

経済産業省が 10 月 28 日に公表した鉱工業指数によると、9 月の鉱工業生産指数は前月比▲4.0%と 6 ヶ月ぶりに低下し、事前の市場予想（QUICK 集計：前月比▲2.0%、当社予想は同▲3.1%）を大きく下回った。出荷指数は前月比▲2.6%と 5 ヶ月ぶりの低下、在庫指数は前月比 0.0%の横ばいとなった。

9 月の生産を業種別に見ると、震災後の落ち込みから急回復を続けてきた輸送機械が前月比▲6.0%と 5 ヶ月ぶりに低下したほか、地上デジタル放送移行前の駆け込み需要の反動減から液晶テレビなどの情報通信機械が 8 月の前月比▲10.6%に続き、9 月も同▲8.2%と大きく落ち込んだ。速報段階で公表される 16 業種の全てが前月比で低下した。



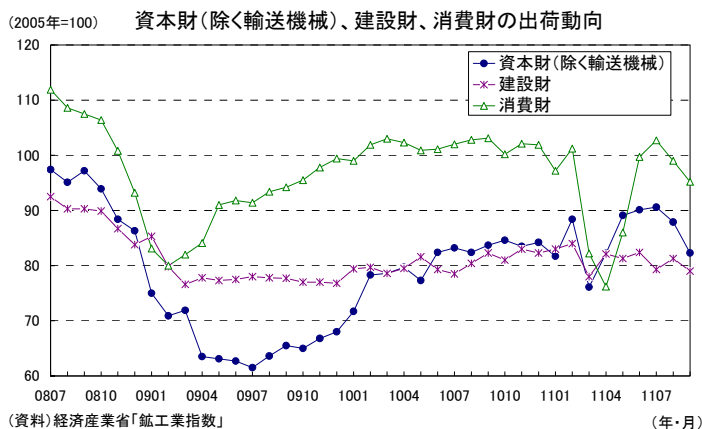
7-9 月期の生産は前期比 4.1%と 5 四半期ぶりに上昇した。ただし、6 月までの急回復により発射台が高かったことによる影響が大きく、実勢としては夏場以降、減速局面に入っている。9 月の生産が大きく落ち込んだことで、10-12 月期は 7-9 月期とは逆に低い発射台からスタートすることになる。7-9 月期の生産を業種別に見ると、サプライチェーンの復旧に伴う大幅増産から輸送機械が前期比 32.2%のV字回復を記録し、7-9 月期の生産増加のほとんどが輸送機械の寄与によるものとなった。一方、世界的な IT 関連財の在庫調整の影響から電子部品・デバイスは前期比▲0.3%と低迷が続いた。

財別の出荷動向を見ると、設備投資のうち機械投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は 4-6 月期の前期比 6.1%の後、7-9 月期は前期比▲0.2%と 2 四半期ぶりに低下した。また、建設

投資の一致指標である建設財出荷は4-6月期の前期比0.2%の後、7-9月期は同▲2.4%となった。

一方、7-9月期の消費財出荷指数は前期比13.4%（4-6月期：前期比▲6.6%）の高い伸びとなった。非耐久消費財は前期比▲0.6%と小幅な低下となったが、自動車、薄型テレビなどの耐久消費財が前期比29.6%と極めて高い伸びとなった。

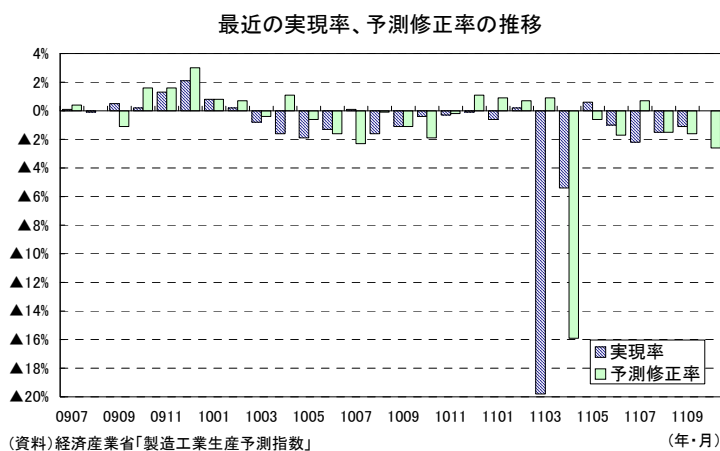
ただし、消費財出荷指数の動きを月次ベースで見ると、8月が前月比▲3.6%、9月が同▲3.8%とここにきて急速に落ち込んでいる。GDP統計の個人消費は7-9月期には前期比で明確なプラスとなる可能性が高いが、10-12月期は再び減少に転じる恐れがあるだろう。



## 2. 10-12月期の急減速は不可避

製造工業生産予測指数は、10月が前月比2.3%、11月が同1.8%となった。生産計画の修正状況を示す実現率（9月）、予測修正率（10月）はそれぞれ▲1.1%、▲2.6%であった。

業種別には、9月に5ヵ月ぶりに減少した輸送機械は10月には前月比12.2%と再び大幅増産計画となっている（11月は同2.7%）。10月の生産が予測指数通りとなれば、震災前（2月）の水準を上回ることになるが、自動車各社はタイの大規模洪水に伴う部品調達難から10月下旬以降、生産調整を余儀なくされているため、実際にはこの計画を大きく下回る可能性が高い。また、液晶テレビの反動減、世界的なIT関連財の在庫調整の影響などから、情報通信機械（10月：前月比▲1.5%）、電子部品・デバイス（前月比▲9.4%）は低迷が続く見込みとなっている。



9月の生産指数を10月、11月の予測指数で先延ばし（12月は横ばいと仮定）すると、10-12月期の生産指数は前期比0.9%の上昇となる。ただし、このところ生産計画が下方修正される動きが続いていることに加え、今回の予測調査の提出期日は10/10で、タイの大規模洪水の影響が織り込まれていないと考えられるため、実際の生産は予測指数の伸びを大きく下回り、10-12月期は前期比でほぼ横ばいまで減速することが予想される。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保证するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。